

(様式第3号)

平成29年11月17日

登米市議会議長 及川昌憲 殿

会派 登米・みらい21

代表 田口 政



調査報告書

調査の概要は次の通りであります。

- 1 調査目的
- 新庁舎建設の取り組みについて
 - 事業概要について
 - 調査建設のコンセプトおよび庁舎の特徴について
 - 構想・建設の場面での議会の関わりについて
 - 住民の合意形成、反応について
 - 健康寿命延伸都市・松本の取り組みについて
 - 事業の概要について
 - 健康づくり課の取り組みについて
 - こどもの生活習慣改善事業について
 - 食育推進事業について
 - 日本で最も素晴らしい公共施設といわれる図書館について
 - 公開プレゼンテーションについて
 - 図書館の特徴について
 - 機能性について、とくに現地調査を交え伺いたい。
 - 図書館建設にいたるプロセス（住民意向等）について
- 2 調査先および日時
- | | | |
|---------|-------|-------------|
| 新潟県燕市 | 11月6日 | 10:45~12:15 |
| 長野県松本市 | 11月7日 | 10:20~11:50 |
| 長野県小布施町 | 11月8日 | 12:50~14:20 |
- 3 調査期間
- 平成29年11月6日から11月8日まで 3日間



4 調査の経過と結果、ならびに所見 別紙添付

5 添付書類 行政視察資料 (②庁舎概要編) : 燕市
松本市 健康づくりの取組み : 松本市
小布施町の概要 : 小布施町

6 調査者氏名 田口政信、及川昌憲、伊藤吉浩

御 旅 程 表

登米市議会(登米・みらい21/太陽の会/岩瀬正弘)行政視察 様

(株)岩手県北観光 本社営業企画部
盛岡市厨川1-17-18
Tel019-641-8811
総合旅行取扱管理者:中井秀則 担当者:中井秀則

ご旅行名: H29/11/6~8 燕市・松本市・小布施町図書館視察
ご出発日: 2017年11月06日 (2泊3日) 方面: 中部 新潟・長野 旅行コード: 041117110052

月 日	ご 旅 程				ご宿泊・備考
第1日目 11/6 (月)	はやぶさ102号	とき307号	5分	トヨタカ-	朝食: - 昼食: - 夕食: - 松本駅前 ホテルニューシティ Tel0263-35-3850 松本市中央1-1-11
	くりこま高原駅 +++++ 大宮駅 乗換 8:30着//8:50発	+++++ 燕三条駅 三條店 手続き	10:15着 500m	10:20 8km	
第2日目 11/7 (火)	15分	2H40	7分	松本駅前 シングル6室	朝食: ○ 昼食: - 夕食: - 長野駅前 ホテルガ/7パ/ニュー Tel026-223-1123 長野市南千歳2-8-5
	8.2km	三條燕IC == 上越JCT == 更埴JCT ==	松本IC ==	3km 1泊朝食	
第3日目 11/8 (水)	8分	14分	40分	25分	朝食: ○ 昼食: - 夕食: - 松本市役所 視察 松本IC == 長野IC ==
	ホテル 10:00頃 1.4km	10:30~12:00 4.5km	56.4km	10.0km	
第3日目 11/8 (水)	35分	40分	40分	5分	朝食: ○ 昼食: - 夕食: - 小布施町図書館 まちとしよテラソ 視察 13:00~14:30 20km
	ホテル 9:40頃 15km	R18 ==	R18 ==	300m	
	かがやき542号	はやて113号	+++++	くりこま高原駅	
 長野駅 15:49発	大宮駅 乗換 16:54着//17:22発	+++++	18:59着	

※当日の天候・道路状況により移動時間に変更が生じる場合がございますので、予めご了承下さい。

調査項目 新庁舎建設の取り組みについて

- ① 事業概要について
- ② 庁舎建設のコンセプトおよび庁舎の特徴について
- ③ 構想、建設の場面での議会のかかわりについて
- ④ 住民の合意形成、反応について

調査月日 平成29年11月6日(月)

調査場所 新潟県燕市 燕市市役所

担当説明職員 議会事務局 局長 幸田 博
議事課 課長 川崎 祐晴
議事課 課長補佐 丸山 篤

燕市 概要

燕市は、越後平野の中央に位置し、新潟市と長岡市の間際に位置し、北陸自動車道三条燕インターと上越新幹線燕三条駅があり、在来線や国道が整備され交通網が充実している。

面積 110.96 km²、人口、80,909人 29,005世帯、信濃川とその分流の中ノ口川、西川など恵まれた水利を利用し米作りが盛んであるが交通網にも恵まれ商工業も発展を遂げている。特に、金属洋食器、金属ハウスウェア製品は国内の主要産地となっている。

現在の燕市は、明治の大合併、昭和の大合併を経て、平成18年3月30日、旧燕市、吉田町、分水町が合併し新生燕市が誕生した。一般会計予算は、381億である。

事業の概要

新庁舎の敷地面積は、35,932 m²で地上4階、延べ床面積11,443.66 m²、高さ24m、構造は鉄筋コンクリートである。庁舎には一般職員374名、臨時職員89名総数463名が配置されている。防災拠点機能の強化という面から免震構造を採用している。省エネ対策をはじめ、環境負荷低減配慮して、建築環境総合性能評価システムにおいて最高評価であるSランクを取得している。

建設事業費は、工事請負費 39.5億、用地取得造成費6億、備品購入費2.2億などで50億円である。財源の内訳は、合併特例債が38億、県の合併特別交付金9.6億であり一般財源は、1359.6万円となっている。

庁舎建設の基本コンセプト

市民が自然に集い、気軽にくつろげ交流することのできる市民の「えん側」となるよう、市民同士、市民と行政の燕(えん)を結ぶ「4つのえん側」の立体的なつながりで一体感の醸成を図り、賑わいのあるまちづくりの拠点となる庁舎を目指す。

* 4つのえん側

- ① ふれあいのえん側…庁舎南側の各階の待合スペース
- ② にぎわいのえん側…まちづくり広場と隣接するウッドデッキスペース

③ 協働のえん（援）側…「つばめホール」

④ まちのえん（燕）側…エントランス及び東側の屋根付き空間

*防災拠点機能

①ヘリポートの設置（屋上）②非常用電源設備の整備（塔屋階）③防災対策室の設置（3階）④免震構造の採用（地下）⑤環境共生型庁舎としての環境対策機能について（自然エネルギーの活用…スイング窓、風力発電、LED照明の導入）

議会とのかかわり

合併協議の段階から検討され、それぞれの3市町で協議し、在任特例期間（7か月）は、全員協議会や一般質問などで論議し、改選後、基本構想策定状況の説明を受けて、平成19年6月に議員全員で「新庁舎建設等特別委員会」を設置して22回の会議で調査、検討を重ねてきた。

住民合意形成・反応

庁舎建設は、新市の市長選の一つの争点となったこともあり、「新庁舎建設市民検討委員会」を各種団体推薦と公募委員53名（当初は36名の予定）で構成し論議をしたが、必要性と位置について方向性がまとまらず両論併記の中間報告がされ、その後、機能や位置について合併協議で方向づけられた候補地（旧吉田町）で委員会の了解を得た。

基本構想や基本計画策定時に「広報つばめ」に特集記事の掲載や、ホームページ内に「新庁舎建設コーナー」を設け詳細資料の掲載するとともに関係資料を公共施設に配置した。

また、「新庁舎建設お知らせ版」の全戸配布、住民向けの事業説明会（3地区）の開催、出前説明会（17回）の実施、設計者の選定の公開（審査、提案パネル公開展示）やワークショップを開催し市民の事業に対する関心を高めた。

研修所見

燕市の新庁舎建設は、合併協議で一定の方向性を示していたが、新市の市長選の争点の一つとなったことから、新庁舎建設市民検討委員会を設置し、熱心な論議を経て方向性見出ししている。また、あらゆる広報媒体を活用し市民に事業の状況を公開しており、とくに設計のコンペも公開掲示などを実施していた。

庁舎の基本コンセプトは、燕（えん）とえん側をかけ「4つのえん側」を基軸に住民本位の空間に配慮しており、省エネ対策、防災機能も充実している。

燕市の庁舎建設の経過を見ると、合併協議の方向性の重要度を痛感した。建設にあたっては市民の意見を十分に聴取し、事業構想、計画や進捗状況、設計までも公開していく姿勢が大切であることを感じた。また、財源については、合併特例債に依存しなければならないことを感じた。

燕市と登米市の庁舎建設の経過は、類似している点が多くある。市民対応や財源の捻出建設のコンセプトなど参考にすべき点が多くあった。また、建設位置が市街地から離れていることから今後のまちづくりの方向を見つめていきたい。

◆登米・みらい21、太陽の会、岩淵正弘合同視察報告書（報告者：登米・みらい21）

平成29年11月7日（火）

調査場所：長野県松本市（松本市役所）

調査内容：健康寿命延伸都市・松本の取り組み

- ① 健康寿命延伸の取り組みについて
- ② 健康づくり課の取り組みについて

調査説明員： 松本市

健康福祉部健康づくり課 課課長 林 裕子
議会事務局 次長 逸見和行
主査 吉沢武士

◆調査概要

松本市は東西52.2km、南北41.3kmで面積は978.47km²あり、長野県内1位の広さである。また、人口は240,276人、世帯数は103,708世帯で、老年人口割合は27.3%である。

松本市では「単に平均寿命が延びても健康でなければ幸せな人生とはいえない」むしろ「健康寿命を延ばすことが人生の質を高めることにつながる」という医師でもある菅谷市長を先頭に「美しく生きる 健康寿命延伸都市・松本」を市政運営の柱に据えたさまざまな取り組みを実施している。

松本市では「健康」とは「身体健康」のみならず、①教育・文化の健康、②経済の健康、③環境の健康、④生活の健康、⑤地域の健康などを包含し、行政、市民、産・学が三位一体となり「健康」を「より良い状態を保つこと」として設定している点などが学ぶべきところである。

◆事業概要

この事業は現首長の政策の柱であり、松本市基本構想2020に挙げた松本市の将来都市像と据えられている。「健康寿命延伸都市・松本」の創造は、単に体の健康づくりにとどまらない「人」、「生活」、「地域」、「環境」、「経済」、「教育・文化」の6つの領域における、人と社会の健康づくりを目指した総合的なまちづくりであり、庁内部署を超えて常に問題意識をもって取り組まれているものである。

世界の誰もが経験したことのない超高齢化時代において、今、行政に改めて求められる最終命題は、そこに住む人々に「生きていて良かった、このまちに住んでいて良かった」とい

う肯定感を抱かせる、「生きがいの仕組みづくり」となることを目指すとして継続的に事業展開されており、その際にはコミュニティ単位での啓発活動の実施などにより、住民生活に根差した活動が行われている。

子どもが未来を語り、若者が地域づくりに参画し、高齢者が自身の知識や経験を地域で生かし、それぞれの居場所で生きる喜びを実感できるような「生きがいの仕組みづくり」を進め、「健康寿命延伸都市・松本」の号令の中、広く市民に理解された政策の柱といえよう。

松本市 所見

「健康寿命延伸都市 松本」の位置づけは、平成22年に策定された総合計画において「めざすべき将来像」として掲げられており、基本方針として6つの健康（人、地域、経済、生活、環境、教育文化）をそれぞれに良い状態を保つことを目標にしている。

特に「人の健康づくり」における特徴的な取り組みは、「草の根運動」の推進役として各町会（自治会）において2名の「健康づくり推進員」を設置している。任期は2年間で平成29年度は866名（女性807名、男性59名）を委嘱しており、OB、OGはすでに2万人を超え市民の健康づくりに大きな役割を果たしている。更に、「食生活改善推進員」や「体力づくりサポーター」等多くの方々が各町会を中心に連携し合いながら、様々な独自の活動を展開している。

その中心的役割を担っているのが市の「健康づくり課」であるが、各部局横断的組織（6部、10課）が作られており、連絡協議会議が重ねられ推進されている。更に、保健師は地域に出向く体制が整備され各地域としっかり連携が図られている。

「健康づくり」のキーワードとしては、①「若い時から」 ②「一時予防」 ③「地域企業連携」を掲げており、「子供の生活習慣病改善」では大学、幼保、小中、教育委員会と連携し合いながら改善につなげている。「働き盛りの生活習慣病予防」では、各企業へ出向いの「健康講座」等を行い高い評価を頂いている。こうした驚くほどの様々な市の取り組みの結果、年々「健康寿命」が引き上げられている。

本市においても、健康寿命の延伸は「第2次総合計画」の重点項目のひとつとなっている。人生を幸せに暮らすためには、ただ単に長生きするだけではなく誰もが「健康寿命」を延ばすことが重要である。しかし、運動だけ、食事だけ、環境だけの取り組みだけでなくすべてにおける連携が重要であると考えます。

自治体は、これから初めて向かう「超高齢化社会」を想定しながら、積極的に「健康寿命」を延ばす努力を「各部横断的体制」のもとで、「草の根運動」を進めて行くことが重要であり、そうした取り組みが自治体としての使命と役割と考える。そして初めて「市民の人生を楽しく、幸せに暮らせる時間を増やしていく」ことが出来ると考える。

調査項目 日本で最も素晴らしい公共施設といわれる図書館「まちとしょテラス」

- ① 公開プレゼンテーションについて
- ② 図書館の特徴について
- ③ 機能性について、とくに現地調査を交え伺いたい。

調査月日 平成 29 年 1 月 8 日（水）

調査場所 長野県小布施町

担当説明 図書館館長 関 良幸
臨時職員 司書 千葉
議会事務局長 山崎博雄

小布施町の概要

1. 小布施町の歩み

明治 22 年、7 村が合併し小布施村に、3 村が合併し都住村となる。

昭和 29 年 2 月、小布施村が小布施町になり、11 月小布施町と都住村が合併し小布施町となる。

「平成の大合併」では、町の個性生かしたまちづくりを進めるべきとの町民意思により、平成 16 年 2 月に自立宣言をし、自立の道を歩んでいる。

2. 面積・人口

面積は 19 km²で、県内で一番狭い自治体である。町の中心部から半径 2 km ほどにすべての集落があり、生活面でも行政面でもコンパクトにまとまった町といえる。

人口は、ここ 30 数年、11,000 人前後推移しているが、高齢化は進んでいて、定住促進が町の大きな課題となっている。

3. 歴史・産業

幕末に土地の豪商高井鴻山が葛飾北斎を 4 回招いたことにより、肉筆画、天井画がたくさん残っていて、それらを集めて昭和 15 年「北斎館」がオープン。以来、街並修景事業ともあいまって、観光客が訪れるようになり、現在では年間 120 万人もの人々が訪れている。

戦前は養蚕、戦後はりんごを中心とし、現在はりんご・桃・なし・プラム・などの果樹栽培が盛んで、農業で成り立っている。

高井鴻山
記念館



葛飾北斎館



小布施町立図書館まちとしょテラソの背景と活動

1. 図書館の歴史

大正 12 年、日本の学制 50 年を受けて図書館建設の機運が高まり、開設には 3 年かかると思われたが、寄付・蔵書が一気に集まり、わずか 3 ヶ月で後に、長野県下で 9 番目の公共図書館として開館した。

その後移転を繰り返し、昭和 54 年、役場庁舎が新設されたこともあり、図書館が 3 階に置かれた。庁舎内という合理性はあったが、利便性に欠け、狭隘であったこともあり、更には長野県下では電化が一番遅れてしまったこともあり、平成に入ると早くも独立建物としての図書館が要望された。

2. 新しい図書館の思い

平成 19 年 3 月、「図書館のあり方の検討会」から提出された報告書の内容を十分に尊重し住民懇談会や意見交換会を踏まえ、新しい図書館は「学びの場」「子育ての場」「交流の場」「情報の場」のを 4 つの柱として、「交流と創造を楽しむ、文化の拠点」を運営の理念とし、建設に向けて動きだした。

3. 設計者と館長の全国から募集

設計は全国から 166 の募集があり、一次選考・二次選考を経て最終的には 5 案を町民公開のプロポーザル審査を行い、ナスカー級建築事務所・早稲田大学教授の古谷誠章に決定した。館長は 25 名の応募があった。

町民は約 100 人で組織する建設運営委員会で、古谷氏の設計の案を様々な角度から意見交換会して修正を施していった。

4. 本と人を繋ぐ場

新たな作品・作家との出会いを演出

① テラソ百選

毎月テーマを決め、スタッフ手作りのポップを添え、閉架を含めた書籍を展示する。

例 3 月「北陸を読む」 4 月「北斎と善光寺を読む」 5 月「絵本を読む」

② 本の福袋 「読本福来」

本 2 冊を内容が推定できるキーワードを貼付けし書名がわからなくならないように包装する。

包装を開くときのわくわく感を演出する。

③ スタッフのお薦めコーナー

④ 追悼コーナー

⑤ 本を介して人と人をつなぐ場

本の無料配布「ブックリサイクル」、おはなし会の皆さんによる「読み聞かせ」、ひとり語り「耳なし芳一」・メンコ・ビー玉などの「昭和の遊び」指導、伝統文化体験「能楽を体験しよう」、パラソルの下でコーヒーを飲みながら読書「カフェテラソ」など行う。

⑥ まちじゅう図書館

酒屋・味噌屋・銀行・郵便局・カフェなどの一角に、仕事に関する本やオーナーの趣味の本を並べて、訪れる人と本を通じての交流を図る。

設計者の古谷氏の発案による、開館時にテラスを中心として街中に小さな図書館をたくさん作り、ICタグをつけて管理しようとしたが、予算上の理由により断念する。

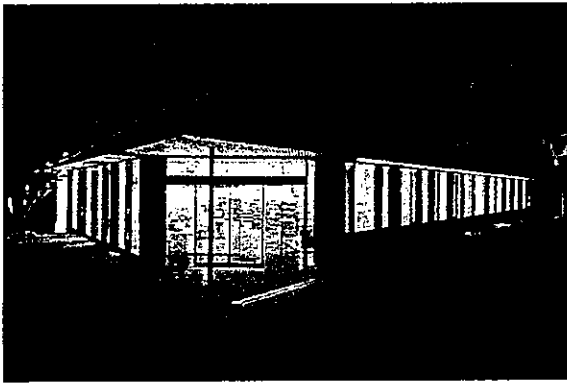
⑦ ワークショップ「本と話そう よむ・かく・つくる」

本を読んだら、今度は自ら書いたり、描いたり、演じたりしてもらいたいということから、本に関係するワークショップを開催している。「かたのべ講座」「一茶でアート」「ハーブオイル作り」「筆で年賀状作り」を開催している。

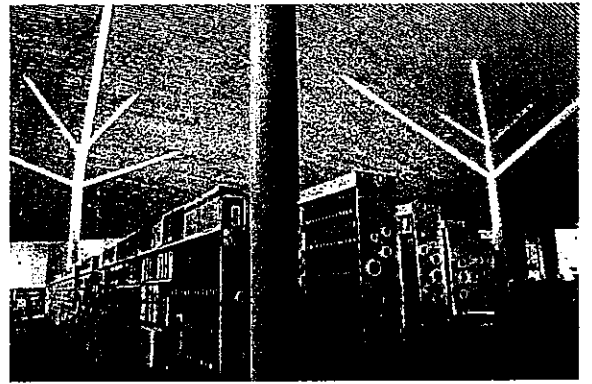
⑧ 子育て

ボランティアのみなさまによる「読み聞かせ会」を月2回の実施を行っている。

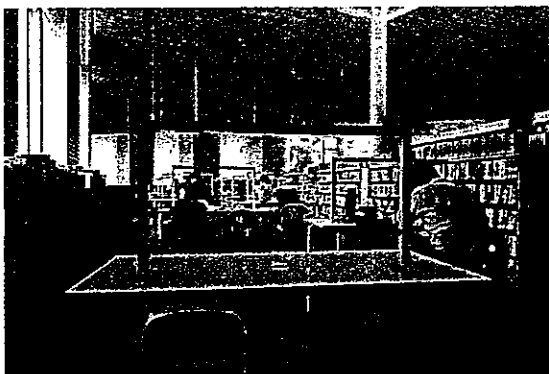
図書館外観



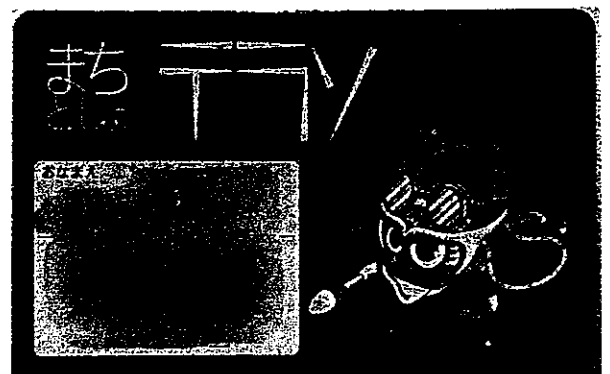
図書館内



図書館内、



まちとしょテラスの利用カード



小布施町 所見

小布施図書館の歴史は大正12年に市民からの寄付や蔵書の寄贈があり、約3か月間で設立された。長野県下では9番目の公共図書館で歴史的にも古くから「図書館文化」を持っている。

今の新しい図書館についても、「図書館文化」の延長線上にあり平成19年3月に市民との協働のもとで「図書館あり方検討委員会」が設置され、話し合いの中で4つの基本理念「学びの場」「子育ての場」「交流の場」「情報発信の場」の柱が掲げられ「独立図書館」の建設がスタートした。

その後、町民約100人で組織する「建設運営委員会」が組織され、図書館の建設について様々な角度から意見や提言が出され、設計の見直しも含め50回以上の会議が重ねられ、建設に至っている。設計者と、館長は全国公募の方法を採用し、設計者は166人、館長は25人の応募があった中で採用がなされている。

現在における図書館の特徴的取り組みは、①「本と人をつなぐ場づくり」②「本を紹介して人と人をつなぐ場づくり」③「創作活動、表現活動を応援する場」④「子育ての場づくり」を基本として様々な活動が行われている。職員については、館長が1名、臨時職員が7名で運営されている。開館時間は午前9:00から午後8:00となっており、蔵書数は開架書庫、閉架書庫合わせて98,000冊。登録者数は9,000人で、年間利用状況は15万人程度となっている。

今、全国的には様々な新しいスタイルの図書館が建設されているが、本市の図書館の貸出数は県内、全国ワーストに近い状況であり、地域格差や学校格差も生じてきている。更に、「図書館無縁率」は約90%にのぼり本市の「図書館のあり方」や「図書館の必要性」が問われている。早急に「図書館基本方針」や「図書館ビジョン」を作成し「図書館のありべき姿」を明確にして行くことが必要である。

更に、小布施町を参考にすれば、「行政目線、行政主導」で簡単に進めるのではなく建設に向けては、市民協働のもとで「市民目線、市民主導」で市民が望む「図書館像」を創り上げ、「市民に必要とされる図書館」「市民に愛される図書館」を目指す必要があると考える。

(様式第3号)

平成30年 2月 8日

登米市議会議長 及川昌憲様

会派 登米・みらい21

代表 田口政



調査報告書

調査の概要は次の通りであります。

- 1 調査目的
 - ばれいしょ選果施設にかかる農業政策について
 - ・農業生産向上に向けた取り組みについて
 - ・販路拡大に向けた取り組みについて
 - ・行政とのかかわりについて
 - 2つの世界遺産登録への取り組みについて
 - ・「明治日本の産業革命遺産」登録成功の実績
 - ・「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」登録に向けた取り組み
 - ・潜伏キリシタン関連施設の現状と、どのような推進をしているのか
 - ・産業革命遺産登録の効果
 - 武雄市立図書館について
 - ・経過戦略について
 - ・利用状況
 - ・機能性について
 - ・図書館運営に対する住民意向等について
 - 糸島農協産直施設「伊都菜彩」について
 - ・「日本一の道の駅」の概要
 - ・「日本一の道の駅」の利用実態の調査
 - ・「日本一の道の駅」の運営について
 - ・「他施設」との競合、現地で知り得る特徴について

2 調査先および日時
長崎県諫早市 1月30日 15:00~16:00
長崎県長崎市 1月31日 9:30~11:00
佐賀県武雄市 2月1日 9:00~11:00
福岡県糸島市 2月1日 14:30~15:00

3 調査期間 平成30年1月30日~2月1日まで 3日間

4 調査の経過と結果、ならびに所見 別紙添付

5 添付書類
説明資料等

6 調査者氏名 田口政信 及川昌憲 伊藤吉浩

平成30年「登米みらい21」「太陽の会」合同視察団 行程

1日目 (1月30日)	
7:40	登米市役所 自家用車乗合わせ 仙台空港 全日空3120 福岡空港 レンタカー 諫早市 (JA視察) レンタカー
17:30	長崎市 (宿泊)
	視察地 JAながさき県央馬鈴薯選果施設 15:00~16:00 宿泊先 矢太櫻

2日目 (1月31日)	
8:50	長崎市 レンタカー 長崎市役所 (視察) レンタカー 17:30 武雄市
	視察地 長崎市世界遺産の取組み 9:30~11:00 宿泊先 武雄セントラルホテル

3日目 (2月1日)	
8:45	武雄市 レンタカー 武雄市図書館 レンタカー 伊都菜彩 レンタカー 福岡空港 全日空1277 仙台空港 自家用車乗合わせ 20:40 登米市役所
	視察地 武雄市図書館 9:00~11:00 JA糸島「伊都菜彩」 15:30~16:00

登米みらい21・太陽の会合同政務調査報告

調査項目 ばれいしょ選果施設に係る農業政策について

- ① 農業生産向上に向けた取り組みについて
- ② 販路拡大に向けた取り組みについて
- ③ 行政とのかかわりについて

調査月日 平成30年1月30日

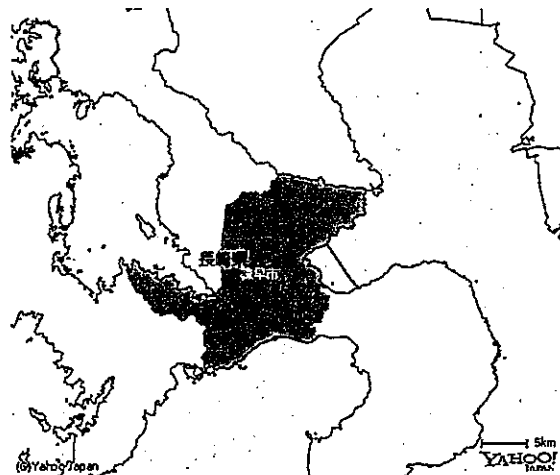
調査場所 JAながさき県央ばれいしょ選果施設
長崎県諫早市天神前1174-1

説明職員 JAながさき県央 営農部指導振興課
南部営農センター

諫早市概要

諫早市は長崎県のほぼ中央部に位置し、東は有明海、西は大村湾、南は橘湾と三方が海に面した都市である。面積341.79平方キロメートル・人口13万6382人（平成30年1月1日現在）。平成17年3月1日に1市5町（諫早市、西彼杵郡多良見町、北高来郡森山町、同郡飯森町、同郡高来町同郡小長井町）が合併して誕生した。

4本の国道・JR・島原鉄道が交わる交通の要衝で、長崎市・佐世保市に次ぐ長崎県内第3の都市である。

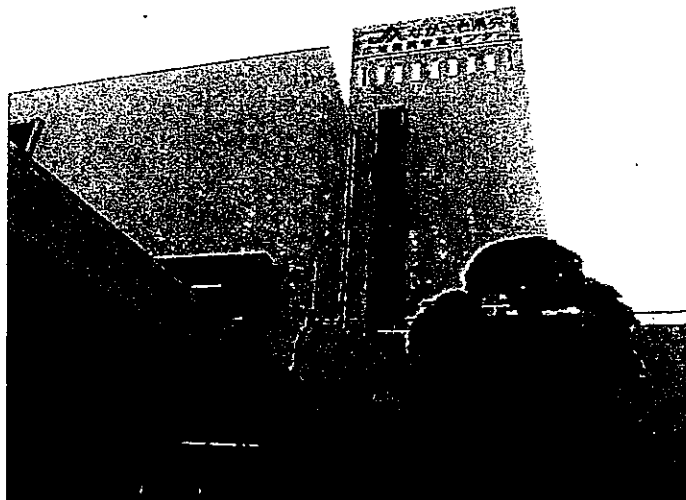


面積		341.79km ²
国勢調査	(2010年)	140,752人
人口	(2015年)	138,078人
人口増減率		-1.90%
(2010~2015年)	(※)	-2.39%
高齢化率		27.10%
(65歳以上・2015年)	(※)	30.90%
人口密度		404.00人/km ²
(2015年)	(※)	152.90人/km ²

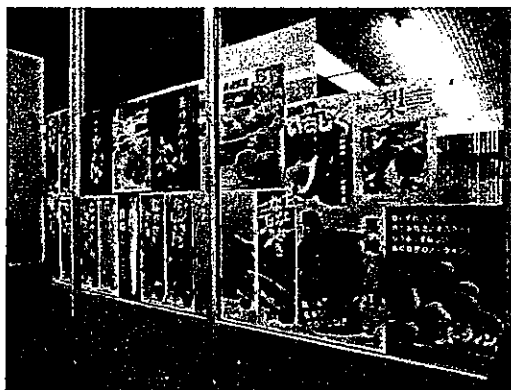
(※) 比較地域：登米市
(→比較する地域を変更できます)

JAながさき県央の概要

本店を長崎県諫早市栗面町に置き、2000年(平成12年)4農協の合併により設立し、出資金51億円、総資産1,543億円、組合員数37,399人(正規11,681、准25,718)、職員数918人、役員29人、支店営農センターを合わせて19か所の店舗数を持つ農業組合であり、事業区域を諫早市、大村市、東彼杵郡東彼杵町、川棚町、波佐見町2市3町をエリアとしている。



平成28年度の販売高は、畜産の好調と馬鈴薯、人参、お茶、イチゴ、ミカンなどで155億円の実績を上げており、事業総利益68億2千万円、経常利益8億9千万円、当期剰余金6億4千万円となっている。



研修事項の概況

JAながさき県央飯盛有喜支店の概況

諫早市の南部に位置し橘湾に面した地区にあり、畑作中心の営農形態で春は馬鈴薯、秋は人参、秋馬鈴薯、大根の栽培をしている。基盤整備も進んでおり、栽培効率も改善し、後継者も多い地区である。

畑地帯総合整備事業を平成8年事業採択され、平成19年北部地区133ha、平成23年南部地区184haに完成し平成27年有



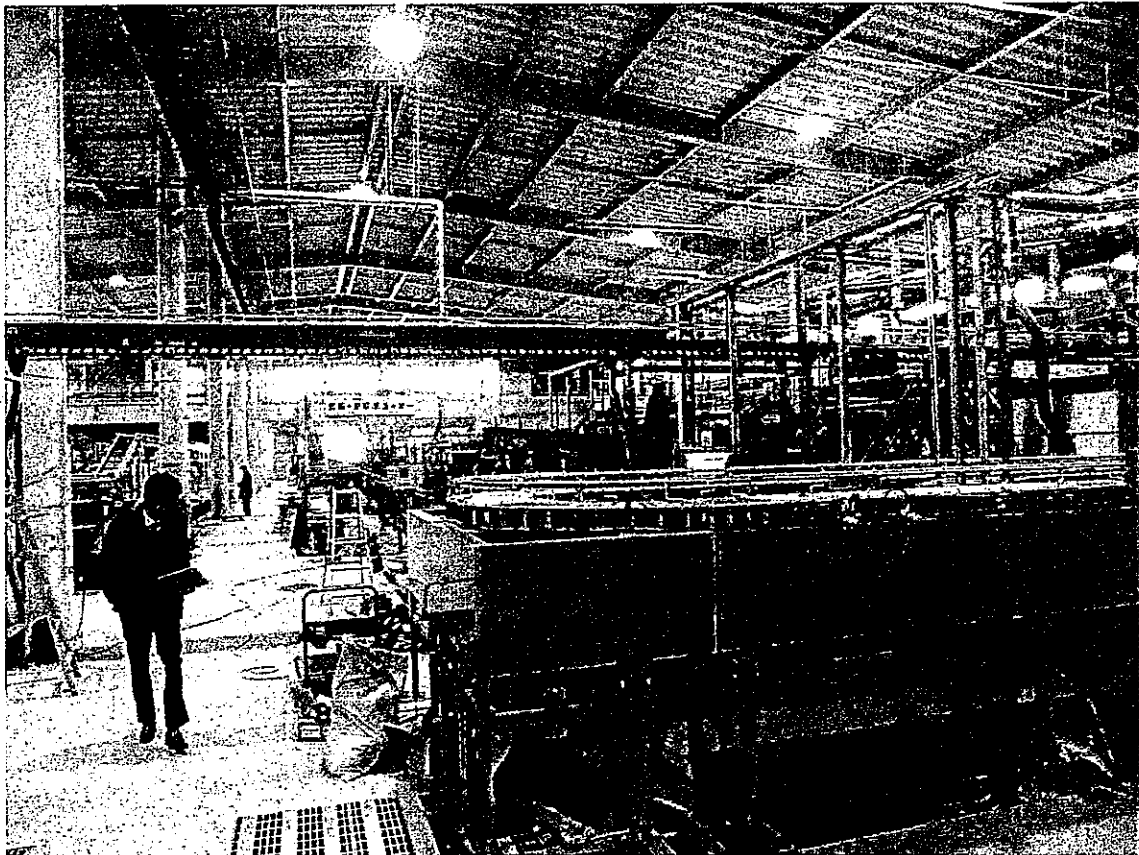
喜地区60ha、(平成29年12月完成)実施し、畑地の条件整備に取り組んでいる。

馬鈴薯部会は、部会員291名、栽培面積、春作350ha、秋作55ha、品種はメイクイン、ニシユタカ、アイユタカであり、出荷量10,488t、販売金額20億9,799万円である。

人参部会は、部会員110名、栽培面積106ha、品種は愛紅・紅日向・敬紅などであり、出荷量5,142t、6億593万円である。販売は、市場流通が主体であり、名古屋、大阪、広島方面へむけており、手数料は、10kg、155円である。

ばれいしょ選果施設の概況

平成28年度産地パワーアップ事業に取り組み、選果能力日量170t、貯蔵庫600t、鉄骨2階建て、延べ床面積8667.05㎡の施設を18.7億で平成29年12月に完成した。財源は、国50%、県1億、市が1.8億。選果機は、PK式選別機6条2式、2系列外観判定装置(3Dレーザー処理)、箱詰装置、自動秤量機15台2系列を設置し、自動製函機、封函機を2系列整備し徹底した自動化に取り組んだ施設となっている。



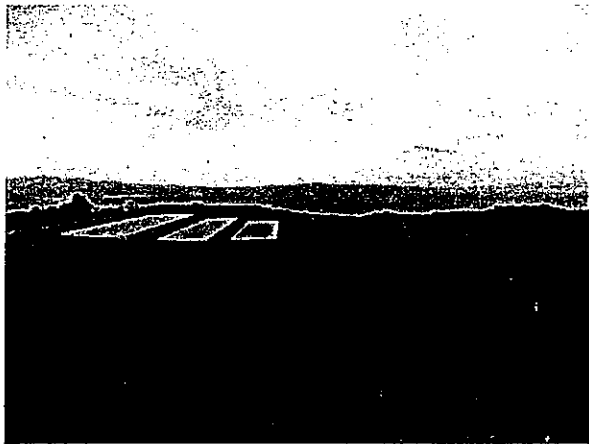
研修所見

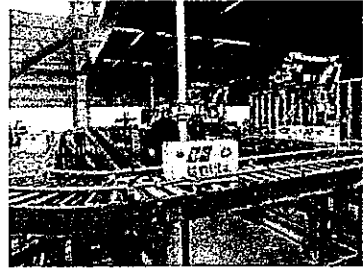
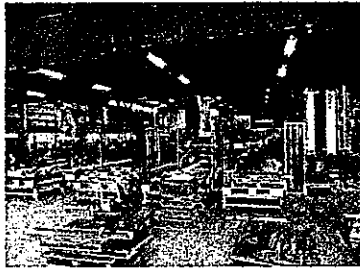
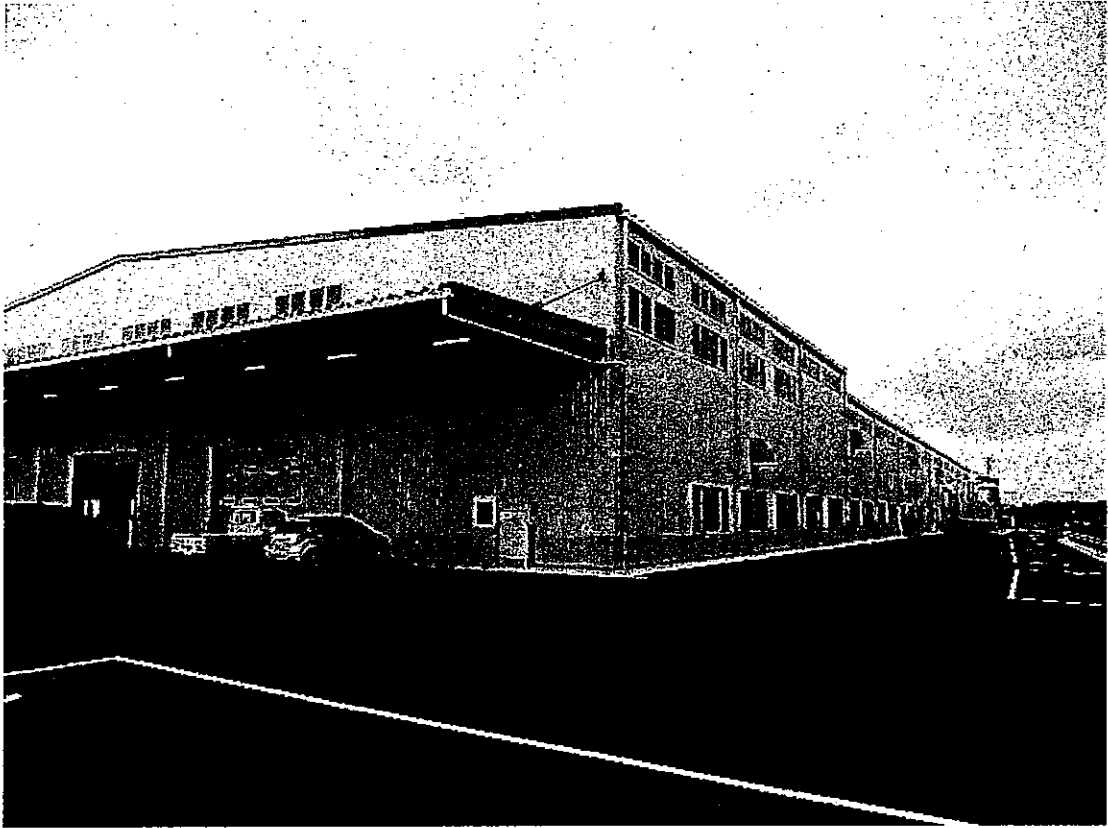
JAながさき県央ばれいしょ選果場は、全国第2位を誇る長崎県の馬鈴薯生産量のうち50%のシェアがあり、将来にわたって持続可能産地にするため国、県、市の補助金を取り入れ事業実施がなされた。特に飯盛地区は合併以前から畑地の基盤整備に取り組みこれまで北部、南部地区を含め377haの整備を実施し、馬鈴薯の春、秋栽培と人参の体系を作り上げている。

登米市の農業は、稲作を基本に麦、大豆、飼料作物を転作作物の柱にし、キャベツなど大面積を栽培できる作物の取り組みを実施してきたが、平成30年度から政策の大転換により生産数量目標の配分の廃止と米の直接支払い交付金の廃止は、新たな登米市農業の組み立てをしていかなければならない。

JAながさき県央の取り組みは、米生産の将来の方向を探る上で、大面積を要する作物の選択していくうえで基盤の再整備、機械化の展開、集荷、選果のシステム検討が必要となってくる。さらに、反当3t、反収40万円は平均的に、可能とのことであり、8haを栽培している農家もあり、後継者も順調に育っているとのことであり、魅力的な取り組みでもある。

農業政策の大転換の時代である今、新たな登米市農業政策の構築に参考にすべき点が数多くあった。





◆調査報告書（2つの世界遺産登録への取組みについて：長崎市）

調査項目：2つの世界遺産登録への取組みについて

- ・「明治日本の産業革命遺産」登録成功の実績
- ・「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」登録に向けた取組み
- ・潜伏キリシタン関連施設の現状と、どのような推進をしているのか
- ・産業革命遺産登録の効果

調査月日：平成30年1月31日

調査場所：長崎県長崎市（長崎市議会議事棟）

説明担当：長崎市企画財政部

政策監 田中洋一
 世界遺産推進室 係長 首藤充
 長崎市議会事務局
 議事調査課長 松竹美由紀
 議事調査課 廣田公平

長崎市概要

長崎市は九州の北西部に位置する都市で、長崎県の県庁所在地である。また中核市に指定されている。面積405.86平方キロメートル・人口42万671人。市面積の13.1パーセントである市街地に人口の約78パーセントが住み、山間部にも建物が密集する。

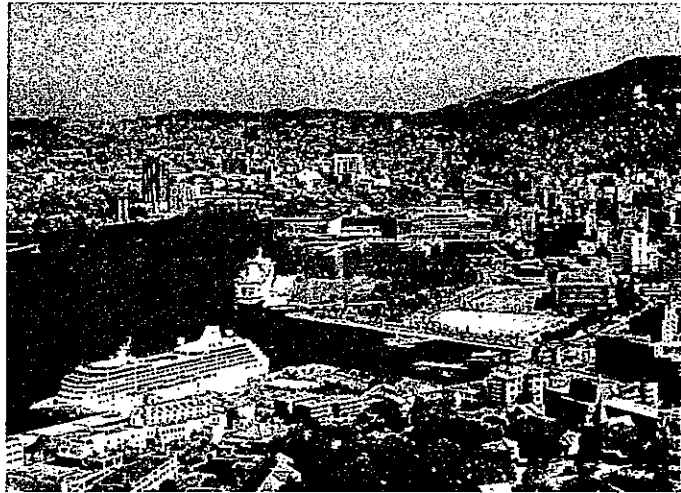


長崎市章

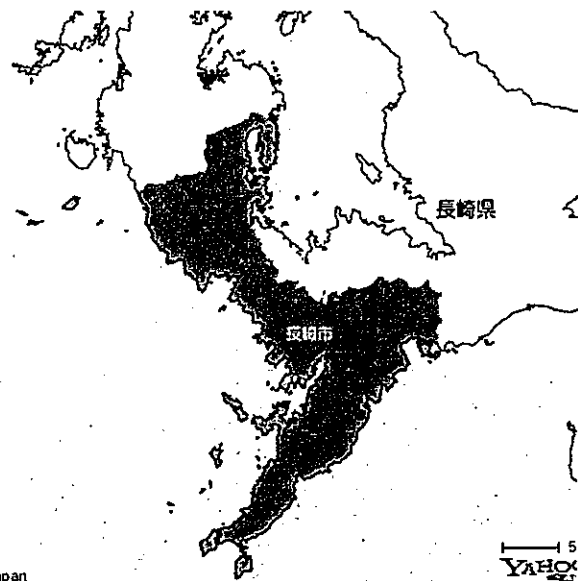
面積		405.86km ²
国勢調査	(2010年)	443,766人
人口	(2015年)	429,508人
人口増減率		-3.21%
(2010～2015年)		(※) -2.39%
高齢化率		28.60%
(65歳以上・2015年)		(※) 30.90%
人口密度		1,058.30人/km ²
(2015年)		(※) 152.90人/km ²

(※) 比較地域：登米市
 (→比較する地域を変更できます)

古くから外国への玄関口として発展してきた港湾都市であり、江戸時代は国内唯一の貿易港「出島」を持ち、ヨーロッパから多くの文化が入ってきた。外国からの文化流入の影響や坂の多い街並みなどから国内他都市とは違った景観を保持しており、観光都市としての要素も色濃くある。



長崎半島および西彼杵半島を市域とする。2005年1月の市町村合併では長崎半島西南部や有人島の離島である伊王島・高島・池島、石炭産業の衰退で無人島となった端島が編入された。さらに2006年1月の市町村合併では大村湾沿岸の旧琴海町が編入合併された。



(C)Yahoo Japan

坂の街として有名であり自転車利用がほとんどない。また、市町村別人口減少数では上位にランクされ新たな課題となっている。

調査の背景

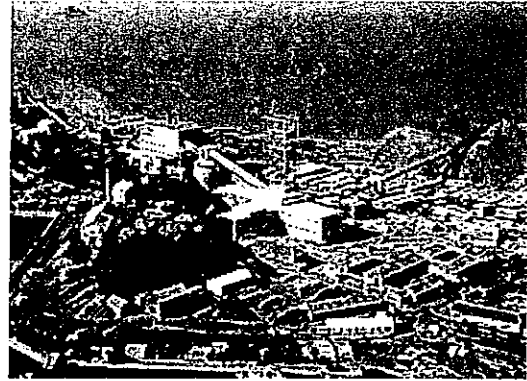
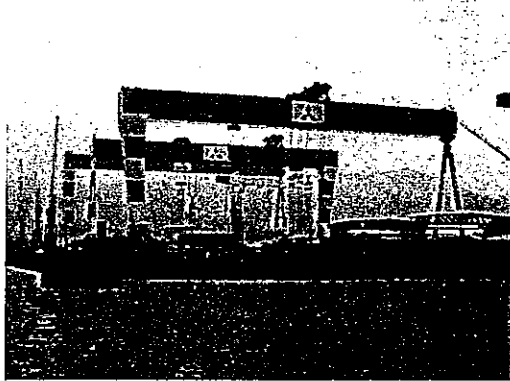
長崎市は、その歴史的経緯からカトリック教徒の数が比較的多いことでも知られており、特にカトリック教会は長崎県単独で一つの大司教区を形成している（日本の大司教区は長崎大司教区・東京大司教区（東京都・千葉県）・大阪大司教区（大阪府・兵庫県・和歌山県）の3大司教区で構成）。市内にはミッション系学校も多く、まちづくりのなかでキリスト教が住民生活に



●● 西本願寺と鐘楼

溶け込んでいる印象がある。

また、同様に官営長崎造船所や高島炭鉱など三菱の企業城下町として繁栄した明治以来の歴史もあり、文明開化の匂い漂うまちでもある。



このような背景から観光都市としても知られるところだが、今回さらなる資源化として世界遺産登録を活用している模様である。

いま長崎市が取り組んでいる世界遺産登録活動は「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」と称した歴史の痕跡である。とくに「潜伏キリシタン」については、登米市においても同様の史実があることから、登米市においても活用できるヒントがないかを目的に調査することとした。

なお事前の調査で長崎市においては、さきに「明治日本の産業革命遺産」で世界遺産登録に成功している実績があるから、そのノウハウおよび効果の検証も調査項目とした。



調査の概要

世界遺産登録活動が盛んな経緯として平成23年の九州新幹線全線開業が一つの契機となっている。山陽新幹線と一本でつながるといふ新しい観光の視点から、主に九州新幹線沿線自治体から動きがあったものである。

もともと世界遺産は国の一本釣りのようなかたちで、国内の代表的な文化遺産を文化庁が主体となって候補を決めてきたものである。文化庁が考える国内遺産というものが概ね登録される見込みがたったことから、平成18年に自治体からの自己推挙制度が出来、それを活用する形で取り組みを決定したものだ。

「明治日本の産業革命遺産」登録の実績について

「明治日本の産業革命遺産」は、平成18年6月に行われた九州地方知事会で「九州近代化産業遺産の保存・活用」を政策連合の1項目として決定したことにはじまる。

平成18年11月に「九州・山口の産業革命遺産群（6県8市13資産）」として文化庁へ提案され、翌年1月の文化審議会では継続審査となった。12月には「九州・山口の近代化産業遺産群（6県11市22資産）」で再提案したものである。文化審議会では世界遺産暫定一覧表への追加が適当と判断し平成21年1月に世界遺産暫定一覧表（国内候補地リスト）に記載された。

平成25年「日本の近代化産業遺産群—九州・山口及び関連地域（8県11市23資産この時点で釜石高炉遺構が追加）」と名称を変更して9月には政府（内閣府案件）の推薦が決定、翌1月に推薦書をユネスコに提出した。

ユネスコ内では世界遺産登録についてICOMOSという諮問機関で調査を行っているが、現地調査を経て平成27年5月に世界遺産への記載勧告が為された。平成27年7月にユネスコ世界遺産委員会で正式に「明治日本の産業革命遺産 製鉄・鉄鋼、造船、石炭産業」の世界遺産として登録に至った。

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」登録に向けた取り組みについて

潜伏キリシタンについてもスタートは、平成18年の九州地方知事会である。長崎県として、何かできないことはないかと考え10月に関係自治体へ世界遺産登録の提案をしたものである。同年11月「長崎の教会群とキリスト教関連遺産（1県5市2町20資産）」として文化庁に提案された。平成19年1月には世界遺産暫定一覧表に記載されたのち5年程度の歳月をかけ、平成24年6月に国に対して推薦書案を提出したところだが、長崎県としての狙いは離島に多く点在する遺産候補を用い交流人口増も踏まえた推薦書案であった。同年7月の文化審議会において推薦の検討がなされたものだが、同時に提案された「富岡製糸場」

の方がより推薦案件として優れており、また長崎の場合は日本全体としての認識がまだまだ低いとのことや、「隠れキリシタン」についての言葉の概念が学術的な明確さが無いことなどが指摘され選考に落選。同年の文化審議会推薦は見送られた。

平成25年1月に、これら指摘事項を修正し再提案したところ、文化審議会ではこの改善を評価し推薦可能と判断した。ただし、平成25年の審議については「産業革命遺産」も同時候補となっており、長崎として2つの候補を同時に持つことになる。長崎県及び長崎市としては、「キリシタン関連施設群」のほうから早い時期から取り組まれており「キリシタン」側に心を置いていたところであったが、「産業遺産」が内閣府推薦案件という形でもあり、産業遺産側に軍配が上がった。2年連続の落選にも、引き続きの活動により翌年9月に政府推薦が決定し、平成27年1月にはユネスコへの推薦書の提出に至り ICONOS の調査（1回目平成27年9月）までこぎつけた。

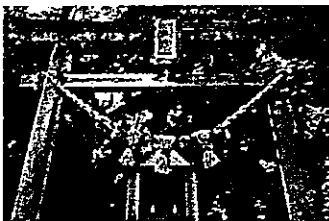
この ICONOS の調査において「遺産とすべき構成や期間」について再考が促され（世界遺産決定するには弱い）、一旦この推薦は取り下げ再検討することになる。

あらためて平成28年9月に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」と名称を変更し推薦書暫定版、平成29年2月に正式版を提出して ICOMOS 現地調査（2回目平成29年5月）ところである。

潜伏キリシタン関連施設の現状と推進方法について

構成遺産の分布については、迫害宗教でもあったことから、離島部分にも散見され大変な広範囲にわたる。世界遺産登録の推進体制は3つの会議（長崎県世界遺産登録推進会議・長崎世界遺産学会・長崎県世界遺産登録推進県民会議）と県及び市・町で役割分担をしている。

行政として県は推薦書作成周知啓発を担っており市・町は法的保護措置地域調整が主たる業務である。実際の構成候補施設については大浦天主堂のような有名史跡は稀であり、どちらかというと地味な資産での構成である。



産業革命遺産登録の効果について

長崎市の観光客数については平成 26 年 6,307 千人、27 年 6,694 千人、28 年 6,724 千人となっている。また代表的な構成資産のうち端島については同様に 191,881 人、286,936 人、265,555 人であり、グラバー邸宅は 1,035,796 人、1,221,243 人、987,822 人である。端島こそ数字上の跳ね上げがみられるものの、見学環境の向上に起因するところも大きいと思われる、また平成 28 年には熊本地震による落ち込みも考えられるところである。

もともと、観光地であったことを考慮すると、観光のバリエーションが増えたと捉えることは出来ようが、世界遺産単独で顕著な数字を示したのは端島のみともいえる。この端島も整備費用は莫大な経費が発生するとされ、整備基金を募っている。

説明については企画財政部からの説明であり、観光振興的要素からの視点ではないことは指摘できる。



長崎市「2つの世界遺産登録の取り組み」 所見

長崎市においては「明治日本の産業革命遺産」と「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の2つの世界遺産登録に向けた取り組みを平成18年からすでにスタートさせていた。

「明治日本の産業革命遺産」は平成27年7月に世界遺産登録され、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」は一度推薦を取り下げ、名称変更や内容変更を行い再提出し13年間をかけやっと平成30年夏に登録の可否が決定する見通しとなっている。

これまでの世界遺産登録は文化庁の一本釣り方式であったが、平成18年からは地方自治体の立候補制となったことから、長崎市として新しい観光戦略の視点から登録に向けての業務が行われた。平成20年からは企画財政部内に「世界遺産推進室」を設置し12名体制をとっている。更に、登録までには市単独の力だけではなく長崎県の強力な主導体制のもとで行われていた。

観光客数の効果については、もともと昔からの観光地であったことから、あまり効果が出ていないものの改めて地域の遺産をしっかりと後世に守っていく責任と役割が強くなっている。

一方では、世界遺産を将来に渡って維持修繕していくためには、遺産ストックマネジメントが必要であり、今後30年間で約108億円の維持経費が必要と試算されている。現在、整備基金やふるさと納税の寄付をお願いし財政計画を立てている。

本市においては、今後、「米川の水かぶり」が平成30年中のユネスコ無形文化遺産登録を目指しているが、改めて県、国との連携が重要であると認識させられた。

更に、「隠れキリシタンの里」等の活用方策の検討など、地域創生の視点からも必要ではないかと考える。

また、昨年大崎市が「世界農業遺産」に認定されているが、本市においても、北上川や迫川の流域での本市農業が育んできた「農産文化や生物多様性」、「環境保全」の取り組み等世界に誇れる素晴らしいものが存在する。地道な努力と研究を重ね追加の「世界農業遺産登録」や、本市の「見える化」のためにも更なる情報発信を進めて行く必要があると考える。

◆調査報告書（佐賀県武雄市図書館）

調査項目：武雄市図書館について

- ・経過戦略について
- ・利用状況
- ・機能性について
- ・図書館運営に対する住民意向等について

調査月日：平成30年2月1日

調査場所：佐賀県武雄市（武雄市図書館）

説明担当：武雄市図書館・歴史資料館

館長 溝上正勝

武雄市議会事務局

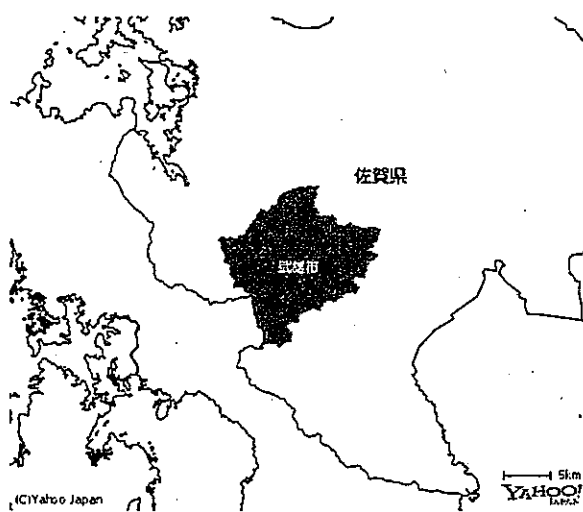
議事係長 吉永和彦

武雄市概要

武雄市は佐賀県西部に位置する市。佐賀市と長崎県佐世保市との中間に位置する町で、中心部に武雄温泉がある。

地形は低山と盆地と川沿いの低地が入り組む地勢である。市城南東部の武雄盆地の西の端と、市域西側の盆地に人口が集中している他の地域は山地である。平成18年3月、武雄市・北方町・山内町の1市2町が新設合併し、武雄市となった。面積195.40km²、人口49,312人（平成29年12月現在）。

西九州の交通の要所でもあり、長崎自動車道と西九州自動車道の分岐があり、JR佐世保本線武雄温泉駅は長崎新幹線の停車駅となる予定である。



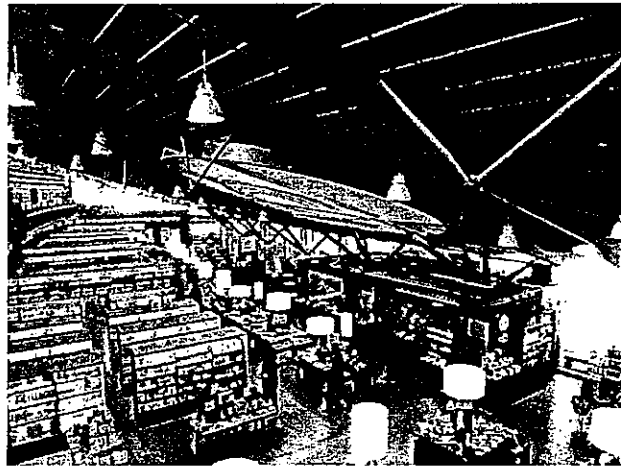
面積		195.40km ²
国勢調査	(2010年)	50,699人
人口	(2015年)	49,062人
人口増減率		-3.23%
(2010～2015年)		(※) -2.39%
高齢化率		28.70%
(65歳以上・2015年)		(※) 30.90%
人口密度		251.10人/km ²
(2015年)		(※) 152.90人/km ²

(※) 比較地域：登米市
 (→比較する地域を変更できます)

調査の背景

武雄市図書館は TSUTAYA 図書館としても知られ、全国に先駆けて図書館を民間委託したことで知られる。

その運営は民間企業らしい様々な技巧を凝らし、行政の範疇では取り組みが困難と思われる事業展開も行っているとのことである。また、住民の利用も顕著な実績をあげているとのこと、地域に親しまれている施設として大変興味深いところであった。



登米市では合併協以来の図書館構想があるが、いまだその具体的な方向性が見いだせずにいる。しかしながら近い将来には必ず事業展開されるものと思われる。多様な図書館について認識をもち、来るべきときに的確な提案スキルを持つことを目的に調査する。

調査の概要

① 経過戦略

武雄市図書館は2000（平成12）年10月に開館した。施設は図書館と歴史資料館で構成されており平成23年度には来館者数255,828人、貸出利用者数82,539人の利用があった。開館から平成19年度をピークに利用者が頭打ちとなり、また固定化された利用に留まるようになったことから、「まちづくりの核」として、図書館機能をリニューアルすることにしたものである。

武雄市では政策的に子育て世代の定住を目指しており、この図書館構想はその中心の一つと位置付けられている。また子育て世代（30代・40代）の利用増を目論んでおり、ターゲットを明確にした戦略を立てていた。

図書館像としては

- ・図書館に縁遠い人の利用
- ・利用者目線にこだわったサービス

を目指している。

指定管理者導入については多分に首長の決断が強かったと見受けられたが、その理由として「行政でできなければ、民間の力で」という柔軟な発想に基づくものであった。

指定管理者には代官山で蔦屋書店を展開するカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社（以下CCC社）を「口説いて」事業委託（指定管理）したもので、全国に先駆けた試みとなった。

② 利用状況

リニューアル前の実績については前述の通りであるが、民間のノウハウを利用した成果の下平成28年度実績で来館者数688,710人、図書貸出利用者数で139,814人を数えるに至る。図書貸出利用者数では年齢構成を把握することが出来るが30代・40代の利用が目覚ましく増えており、20代・50代さらには小学校高学年とみられる年代でも顕著な改善が見取れる。

利用者の地域に関してだが、武雄市内にとどまらず福岡や長崎といった他県からの利用も少なくない。返却の方法に郵送を取り入れることによって、利用者の便を図っている。

③ 機能性

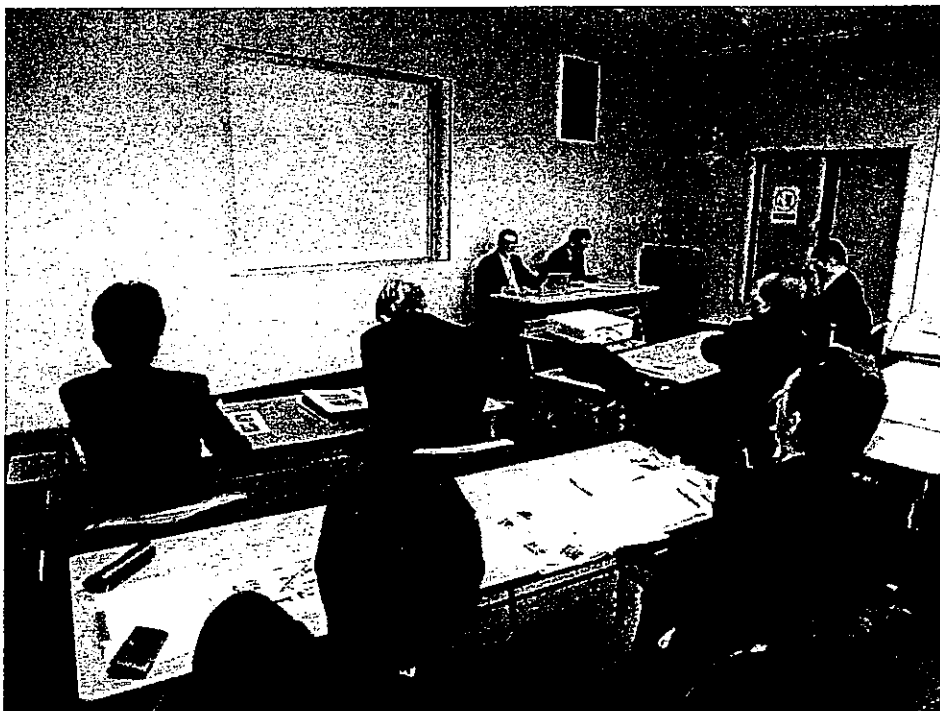
図書館内に喫茶コーナー（スターバックスコーヒー）や書店（TSUTAYA書店）が併設されており、営業スペースが設けられている。とくに書店を併設していることで雑誌に触れることが出来る。公共図書館では費用面から取り組みにくい分野にしても、売本の形をとることによって需要をカバーしている。また喫茶スペースにおいても、利用者ニーズを見越しての設置であり、このあたりにも民間の行動力を感じる事が出来る。また貸出実務に

はTカードを利用した管理が導入されており、無人貸し出しも可能としていることで人的コストの軽減が図られている。

平成29年、隣地にこども図書館を設置した。子育て世代政策を前面に出す戦略であり、まさしく就学前児とその親のためのスペースとなっている。一般図書スペースと別棟のため、子供と伸び伸び利用することが出来るよう配慮されている。

④ 住民意向

詳しくは別添資料によるが、特筆すべきは満足度が高い点にある。施設としてのハード面、またスタッフサービスに代表されるソフト面で85%以上の評価が出ている。逆に不満要素は駐車場の混雑が挙げられている。正直、駐車スペースについては人口5万人規模の地方都市図書館駐車場としては、まともな規模を有すると感じたが、図書館自体の魅力が収容規模を上回っている結果である。



「武雄市図書館」 所 見

「武雄市図書館」は平成12年に建築されたが、平成25年に約4億5千万円をかけリニューアルし、平成29年には約4億9千万円をかけ「子ども図書館」をオープンしている。リニューアル建設については、前樋渡市長がトップダウンで事業が進められ、図書館運営については指定管理制度を導入しているが、非公募でCCC（カルチャ・コンビニエンス・クラブ）に委託し、建設計画段階から協力を得ている。

委託費はこれまで1億1千万円で運営されていたが、平成30年度からは7千万円増額の1億8千万円の委託費を見込んでいる。

目指す図書館像は「便利で役立つ図書館」を目指しており、営業時間はAM9:00からPM9:00までで年中無休で運営されている。館内には書店やレンタル店（戦略的に閉店、スペースは児童用コーナーにリニューアル）、コーヒー店（スタバ）も入っている。

来客数はリニューアル前は約25万人程度であったが、平成25年には92万人で平成29年は65万人と減少傾向にはあるが集客施設としては高い評価を得ている。登録者数は市内が36%で市外が64%と市外の利用者が圧倒的に多い状況である。

本市においても今後、図書館建設が予定されているが、全国的には様々なスタイルの図書館が建設されている。現在、日本には3,300館の図書館があるが、指定管理を導入している自治体は約500館で全体の約15%の状況にある。

指定管理で大きな課題は、一度民間に委託したことで自治体としての図書館運営のスキルや専門性や技術の継承が極めて難しくなり、全てにおいて民間企業まかせに、なりかねないという心配が浮上している。そういった意味において自治体としてのガバナンスが非常に重要であると考えます。

「公共図書館のあるべき姿」はどうあるべきか、憲法や教育基本法、社会教育法、図書館法等も考慮しながら、本市の図書館はどういった図書館を目指していくのか、市民に必要とされる図書館は、愛される図書館はどうあるべきか、今後、早急に市民と一緒に議論を深めていく必要がある。

◆調査報告書

調査項目：糸島農協産直施設「伊都菜彩」について

- ・「日本一の道の駅」の概要
- ・「日本一の道の駅」の利用実態の調査
- ・「日本一の道の駅」の運営
- ・他施設との競合、現地で知り得る特徴

調査月日：平成30年2月1日

調査場所：糸島農協「伊都菜彩」

説明担当：なし

改選期に当たるため、行政による視察受け入れは中断中である。

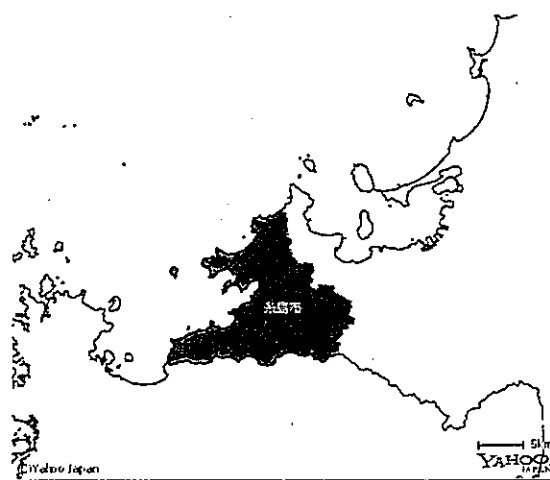
また糸島農協の現地管理者（糸島農協直販担当：[REDACTED]）とも事前打ち合わせをしたが、視察説明の対応はしていないとのことであった。ただし、施設の見学については問題がないとのこと現地見学による調査とした。

糸島市概要

糸島市は、福岡県最西部に位置する市で、糸島半島の中央部および西部と、その南側からその南西の福岡県西端部の一帯を市域としている。北側と西端部は玄界灘に面し、東側は福岡市に接する。南部は背振山地があり佐賀県と接している山岳地域で、南西部は唐津市に、南東部は佐賀市に接する。面積215.70Km²・人口100730人(平成29年末現在)。

筑肥線が東西に通っており、旧前原市域を中心に近年ベッドタウン化が進んでいる。また豊かな自然環境や、カフェ等飲食店舗の増加、福岡都心まで30分程度という地理条件もあり、注目を集めている。

2009年、前原市・志摩町・二丈町による新設合併により誕生した。



面積		215.70km ²
国勢調査 人口	(2010年)	98,435人
	(2015年)	96,475人
人口増減率 (2010～2015年)		-1.99%
	(※)	-2.39%
高齢化率 (65歳以上・2015年)		26.80%
	(※)	30.90%
人口密度 (2015年)		447.30人/km ²
	(※)	152.90人/km ²

(※) 比較地域：登米市
(→比較する地域を変更できます)

調査の背景

対象施設の「伊都菜彩」は日本一の道の駅として知られている。糸島農協で経営しており産直施設の位置づけである。

糸島市のHPによれば、約1,270平方メートルの広い売場面積を誇り、「糸島の大地そのままいっぱい」と呼べるほど、豊かな食材が満載です。



『伊都菜彩』は、糸島のみんなで育んだ農の恵みをみなさまにお届けするために、平成19年4月に生まれたJA糸島直営の直売所です。

採れたての新鮮なおいしさに、私たちがお伝えしたい「糸島産」のすべてが、そのままいっぱい詰まっています。広い店内は、明るく、たくさんの農畜産物や海産物、加工食品やお惣菜などがずらりと並び、糸島の豊かな食材が満載です。



その設置目的には、「地域の食と農に関わる文化の発展と継承」や、「生産者と消費者の共生」を図ることがあり、「なんでも前原(地産地消)」の拠点となる施設の1つです。

と紹介されている。また1400人もの出品者を地元を抱え、福岡市民の身近な台所として成功している様に、登米市に想定される今後の展開の一助を探るために視察とした。

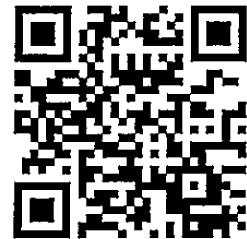
なお事前電話打ち合わせにおいても、量的な忙しさ(売り場での現地作業)に追われている様子が伺い知れたところであり、民間施設であることを十分に意識したうえで調査した。

今回の調査については、先方自治体が改選期にあたり視察対応できないこと、および、施設設置者も視察対応まで手が廻らない状況を考慮しつつ、施設見学の了承は得られたことをもっての訪問となる。異例ではあるが施設見学を持って状況を理解するに留まるが、せっかくの機会でもあるから、学ぶこととした。

なお、事前の情報収集には

「健美伝心 (<http://kenbi-denshin.com/fukuoka/itosaisai-3347>)」

が大変参考になったので申し添える。



「伊都菜彩」 所 見

産直市場「伊都菜彩」は平成19年4月にJA糸島が直売所としてスタートして、平成27年10月にリニューアルオープンし、現在では、年間41億円の売上高を誇り、日本一のモンスター直売所に成長している。

登録農家は約1,500人が登録され「伊都菜彩」での産直販売が農家所得の向上につながられており、農家の活動拠点施設と位置付けられ農業振興の起爆剤になっている。

面積は、九州最大級の広い売り場スペースが確保されており、ゆったりと買い物ができる設計となっている。売り場には、農産物をはじめ海産物や肉類等多様な食材があり、品揃えもバラエティー豊かで興味をそそる。ちなみに農産物の地場産率は97%となっている。

特徴的な点は、オリジナル特産商品が多く、多様な各種イベントが連日開催され来客者数は年間130万人を達成している。

現在、全国の道の駅は1,000を超える施設が存在している。本来はドライバーの立寄りトイレ、休憩施設であったが、最近では道の駅自体が魅力を形成し「目的地」となっている所も多くなっている。

本市における道の駅は、「三滝堂」を加え5施設となっており、トータル来客数は「伊都菜彩」以上の約150万人にのぼっているが販売高は伸び悩んでいる。

今後とも、道の駅を拠点として、「地域の産業振興」をはじめ「観光や移住定住」、「情報発信」を含めた本市の「総合窓口」としても機能強化を図りながら、更なる進化を進め地域活性化のための「道の駅」に成長していく必要があると考える。